海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第2回)

- 1 日時 令和6年9月26日(木) 8:50~12:00
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校 校長室
- 3 出席委員 伊藤健三委員長、岩崎佐容子委員、山本敏昭委員、金子由美子委員、山室修次委員、坂野千幸委員、坂田美帆委員、三橋正人委員、東優也委員
- 4 会議の内容(会議開催の前に音楽集会を参観していただいた。)

(1) 委員長挨拶

伊藤委員長:音楽集会では、子どもたちが一生懸命頑張っていることに感動した。子どもの力を引き出してくれた先生方にも感謝します。夏休みが終わって一か月で、音楽を楽しんでおり、子どもたちのやる気満々を感じることができた。

(2) 【協議】学校と地域の連携について

坂野校長:昨日大谷中学区の運営協議会の中で話し合いが行われたが、今後どのように連携をしていけたらよいか、皆さんと協議したい。

東委員:大谷中学校では総合の時間のコメ作りで、地域と連携をしている。杉久保小では、連携できているか、協働できているか、充実できているか考えた時に、コロナ禍でなかなか進んでいない状態である。しかし、制限がなくなったので、地域の教育資源を使って、地域連携を深めていきたいと考えている。2年生の担任として、今年は、トマト農家や大豆農家の方に手伝っていただき野菜作りに取り組んでいる。2年生の取組は、5年生の社会科の農業の学習につながっていく。また2学期の町探検の取組では行きたいところに主体的に行くことで、3学期の町探検では、もっと深く学びたいことがでていくようにしていきたい。

職員会議では、地域連携について、毎回話題に出すことで、全学年に広げていきたい。杉久保の良さを感じ、様々な人とかかわる中で、もっともっと杉久保が好きな児童を大谷中に送り出したい。地域と手と手を取り合って、子どもたちの教育をよりよくしていきたい。

坂野校長:今年は、「こどもの森学」を学校のカリキュラムに位置づけをして全学年が取組をしている。地域に広げていけるとよいと考えている。

金子委員:こどもの森については、協力している保護者や地域の方が増えている。立哨して思うことは、虫かごを持って学校に行く児童がとても楽しそうで、行くのが楽しみな森があるというには、とてもよいことだと思う。

岩崎委員:地域との連携が希薄になってきている。たとえば土曜に職員やP T A、地域の方と何かをする機会を設けることなどしてやっていかないと、名前もわからないなど難しく感じる。

坂野校長:柏ヶ谷小学校で子育て交流会ということをやったことがある。そのときは、サイコロトークをして子育てについて地域の方と話し合いをした。

東委員:東柏ヶ谷小学校では地域の声を聴いたときに、衝撃が走った。地域の方は、何年生に何を教えてほしいのか、その目的などがわからない。学校が情報を開示してほしいという要望があった。学校がやってみたい内容を情報として開示すると、それを必ずやるものだと思ってしまうが、実際にはやれるかどうかかわからないこともある。地域の方の可能性を生かすにはどうしたらよいか。

山本委員:学校、地域、P T A、行政、それぞれでこなすことでいっぱいいっぱい、子どもたちのために、大義名分でしっかりしたものをやっていくことが大切だと思う。自治会では、広報誌を配るだけになっている。地域は広報誌でしか学校の様子を知ることができない。例えば、おまつりをするときに、学校を巻き込んで取り組むのが難しい。それぞれが独立してやっているの、その場その場での対応で、いろいろな方を巻き込んで継続してやれるとよいのではないか。例えば、町探検をするときに、ゴミ拾いをしながら町探検をするなど、いろんなエッセンスをいれながらの町探検であると、見ている地域の方の中に協力者がでてきて、小さな連携がとれていくのではないか。

東委員:生活科だけでやると、町について学習でとどまってしまうが、地域の人と一緒にやることで、地域への貢献につながるのではないか。地域の学習を低学年から積み重ねることが大切だと思う。

岩崎委員:自発的に子どもたちが考えたことをサポートしていけたら、ゴミ拾いを見た人が協力してくれる第一歩に思える。ただ、企画するところに先生の負担が大きい。余計な負担をかけさせていいのか。時間外になってしまうところと、率先して地域とつながってほしいという思いと矛盾するが。

伊藤委員長:地域の力は、積み重ねが必要。学校でのカリキュラムができれば、少しでも負担が減る。

東委員:今年実践した地域での取り組みをまとめる。計画はしたけど実施できなかった

た場合でも、来年度への可能性をつなげていく。できるかできないかは、その担任の判断になるが計画を立てておくだけでも、実現に近づいていく。系統的な積み上げをしていきたい。

伊藤委員長:杉久保の地域の特性とは何なのか。住宅、山、畑がある。商店は少ない。自分たちが住んでいるところは、どんなところか、もっと大きな森についても知ってほしい。農大の山と、水道道、海老名の山など、子どもたちに何に気づいてほしいのか、何を自慢してもらえるか。昔、杉久保小の児童が植えた森が近くにある。自然が一番杉久保が持っており、他の学校にないところで大事な財産である。

山室委員:森の活用という点においては、これまで具体化しなかった。森の樹木や昆虫を体系立ってできたことはない。過去には森に入ろうという思いに至らなかったようだ。体系的にできないかと考えていたので、いい流れだと思う。どんなことを学ばせるのか、地域の農業や農作業との関係に広げていくといいと思う。何年前にはトウモロコシを作っていた。

農大と連携をしていくのはどうか。農業アカデミーの広大な森や家畜、果樹園、温室や花など資源をうまく活用していく可能性があるのではないか。ゴミ拾いも大事だが、何をさせていくか、1年から6年までの体験の中で位置づけていく。森を生かした自然体験などもう少し自然を活用できないか。

伊藤委員長:森に入るのが怖いという児童はいるのか。蚊や虫がいても、行きたいと思える、森っていいなと1,2年生あたりで感じられるいい。大人でも怖くて入れない人もいるだろう。

東委員:雨の日の次の日は森に入ると滑るので入ってはいけないルールになっている。

岩崎委員:前みたいに、森に行きたいという児童が少なくなっている。誰かがついていければいいけど。

東委員:子どもの安全も守らなければならない。ハチが出れば、危ないし、遊具も古くなると危険が伴う。森で音楽をやってみたいなどは思っているが。

伊藤委員長:体験が損なわれているだろう。危険と体験は相反する。小さいうちにいかに小さい危険を体験させるか。どちらをとるのか。

岩崎委員:けがをさせてしまっは大変なこと。

伊藤委員長:保護者の意識もあり、どう啓発をしていくのか。保護者の価値観を変えるようにできればよいのでは。

山室委員:保護者にボランティアを頼むことで、森のことをより知ってもらえるのでは

ないか。

山本委員：PTAや地域の方とどう関われるのか。教職員が自治会に参加してお願いをする。つながりが網目状になっていけばいい関係が築ける。森の整備や伐採にしても、地域にはプロフェッショナルがいるかもしれない。

山室委員：山仕事の会が良くかかわってくれている。

岩崎委員：山仕事の会も高齢化が進んでいるため、若手のボランティアがいれば。

山本委員：現役でやっている若い方は平日が難しい。ボランティアは人間関係を築けないといけない。

岩崎委員：この地域は比較的、協力的な地域だと思う。

伊藤委員長：森が危険という意識を持ち始めるとよくない。

金子委員：けがをしないためにどうすればいいのかが、子どもたちにはわかっていないのでは。

山本委員：学校開放日などオープンキャンパス的なものがあればよいと思う。

山室委員：高校は夏休み中にオープンキャンパスが多い。夏休み中のオープンキャンパスはどうか。勤務の振替の課題。何を宣伝するのか、やるからには、いいところを見せる。そのためには、資料の作成が大切。森の良さを知らせていく。

伊藤委員長：保護者に知ってもらいたい。運動会に森に入れたらどうか。日陰もあるので。どうしたら子どもが幸せになれるのか、豊かな体験が大切。

岩崎委員：保護者自身が森で遊んでいない人が多いのではないか。親子で森探検などそういう機会を入れていければ。

伊藤委員長：1月にある「こどもの森の整備」の機会がとてもよいと思う。

金子委員：森の整備は年に2回ぐらいできるとよいと思う。保護者が楽しめたら、子どもも楽しめる。

山室委員：SNSやバーチャルの世界で楽しんでいるが保護者の中には、様々な体験をしてほしいと思っているはず。架空の世界で過ごすことが多くなっているが、小中の成長期にタブレットやSNSでいいのだろうか。菜園など足元を見ながら先に進める。地に足ついたものにならないかと思う。

伊藤委員長：森の中の段々畑はPTAが作ったもので水道まで引いてある。

岩崎委員：前は、地域の方が一生懸命畑のボランティアをしてくれた。学校のフォローがないとボランティアも続いていかない。

坂野校長：皆さんからヒントをたくさんいただいたので、できるところから取り組んでいきたい。

(3) 学校の予定について

運動会が11月23日(土)雨天の場合は24日(日)26日(火)

(4) その他

次回の第3回学校運営協議会は、令和6年12月4日(水)15時より。